

宮崎市出身の瑛九（本名：杉田秀夫）は、生涯を通じて常に新しい表現を求め、写真や版画、油彩など様々な技法に取り組みました。またその作風も、初期から晩年に至るまで、印象派やシュルレアリスム（超現実主義）風、抽象的な作品など、多彩に変化しました。

20代でフォト・デッサン集『眠りの理由』を刊行し、一躍美術界で脚光を浴びた瑛九は、様々な技法や表現を模索した後に、その集大成ともいえる点描による絵画空間へとたどり着きました。

今回の展示では、油彩や版画など、各領域の代表的な作品に加え、若き日の瑛九芸術を理解し支えた北尾淳一郎の論文等を、当時の瑛九の作品と併せて紹介します。没後60年近くを経て、今なお輝き続ける瑛九作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936(昭和11)	21.6×26.6	フォト・デッサン
2	瑛九	1911～1960	乱舞	1950(昭和25)	55.8×45.5	フォト・デッサン
3	瑛九	1911～1960	失いし時	1957(昭和32)	24.0×16.1	リトグラフ
4	瑛九	1911～1960	赤い風船	1957(昭和32)	23.3×15.8	リトグラフ
5	瑛九	1911～1960	旅人	1957(昭和32)	37.9×52.4	リトグラフ
6	瑛九	1911～1960	眼が回る	1955(昭和30)	53.5×65.1	油彩
7	瑛九	1911～1960	籠目の青	1957(昭和32)	72.9×53.3	油彩
8	瑛九	1911～1960	月	1957(昭和32)	162.2×130.5	油彩, エアブラシ
9	瑛九	1911～1960	群	1958-59(昭和33-34)	97.2×130.2	油彩
10	瑛九	1911～1960	つばさ	1959(昭和34)	259.0×181.8	油彩
11	瑛九	1911～1960	ザメンホフ像	1934(昭和9)	53.1×41.0	油彩
12	瑛九	1911～1960	タバコを吸う女	1935(昭和10)	32.4×23.7	油彩
13	瑛九	1911～1960	マッチの軌跡	1936(昭和11)	53.2×45.7	油彩
14	瑛九	1911～1960	眼	1936(昭和11)	27.6×23.0	フォト・コラージュ
15	瑛九	1911～1960	作品B	1936(昭和11)	28.4×23.0	フォト・デッサン
16	瑛九	1911～1960	題不明	1936(昭和11)	22.6×27.6	フォト・デッサン
17	瑛九	1911～1960	でいすい(よいどれ心理)	1937(昭和12)	37.9×45.8	油彩